

令和7年度

坂井市立三国病院経営強化プラン評価書

令和8年3月

坂井市立三国病院経営強化プラン評価委員会

評価書

【経営強化プランP18～P20 数値目標、収支計画、具体的取り組みの評価】

◆ はじめに

- ・坂井市立三国病院経営強化プラン評価委員会は、坂井市立三国病院経営強化プラン（以下「強化プラン」という。）の点検・評価を実施した。

＜評価委員の主な意見＞

・看護師の確保は福井県における喫緊の重要課題であり、持続的な医療体制のためには処遇の在り方が鍵となる。看護師の年収・月収水準や民間病院との比較を数値で明確にし、実態を可視化する必要がある。特定行為看護師など役割や貢献度の高い人材を適切に評価・処遇に反映させる仕組みを整えることで、モチベーション向上と人材確保、ひいては病院全体の医療の質向上につながる。

・今回の報酬改正では、外科医確保のために外科医へ手当を支給すると手術料が約10%増額される制度がある。しかし公務員病院では特定の職種のみ手当を出すことが難しく、制度を活用できない病院も多いとされる。一方、全適により職員間の差が生じる可能性はあるものの、病院全体としては収益を確保しやすくなると考えられる。

・内科で開業する立場から、三国病院は最も身近な総合病院として重要な存在であり、内科医の増員が何より心強い。容易ではないことは理解しているが、将来的な増員を期待している。今回、消化器外科を中心とした外科医2名が着任する予定と聞いているが、手術実施の可否は現時点では不明である。自院では内視鏡検査を行っていないため、外科系患者を他院に依頼しており、新たな外科医の受け入れ体制や役割に注目している。

・整形外科では外傷患者への即時対応が求められる一方、受け入れキャパシティが限られており、患者が集中すると対応しきれず、結果として退院後に空床が生じる状況がある。安定的に入院患者を確保するには、人工関節などの変性疾患に対する予定手術を継続的に行うことが有効である。良好な手術成績により患者満足度を高め、地域での口コミを通じて変性疾患患者を増やしていくことが重要である。

- ・今後は医師配置の中で産婦人科の位置づけを明確にすることが重要である。福井県

的に地域周産期センターを目指す場合は広域から患者を受け入れる戦略も考えられるが、NICU等の整備など現実的な制約も大きい。地域に産婦人科がない状態が常態化しつつある現状を踏まえ、地域として産婦人科医療をどう維持・位置づけるかの戦略的検討が必要である。

- ・地域包括病床の利用率を90%以上で安定的に維持できれば、病院収益面で大きな改善が期待できる。現在は約83%と目標まであと一步であり、介護老人保健施設等からの急変患者の受け入れを円滑に行えれば、達成は十分可能と考えられる。特に、必ずしも高度な処置を要しない患者も多いため、施設との連携強化やホットラインの充実、れオンライン活用を進めることで受け入を拡大できるのではないか。処置件数の増加が難しい中でも、こうした連携により病床稼働率向上を図ることが重要である。

- ・福井大学医学部の地域枠医師は初期研修後、7年間地域勤務が義務付けられており、三国病院はB群として2年間の勤務先に位置づけられている。今後、地域枠医師は年間15名に増え、奨学金対象医師の比率も高まる見込みである。地域枠医師は専攻医として勤務するため、指導医の存在が病院選択の重要な条件となる。三国病院が地域枠医師を受け入れていることは非常にありがたく、今後も指導体制を含め、地域枠医師が働きやすく来やすい環境整備を進めてほしい。

- ・評価にあたっては、強化プランに掲げる項目の数値目標について、坂井市立三国病院が行った自己評価を基礎として次の4段階評価基準による評価を行った。

<評価説明>

評 価	評価の基準	
◎	計画、目標数値を大きく上回った	(+10%超)
○	計画、目標数値をほぼ達成した	(+10%まで)
△	計画、目標数値をやや下回った	(-10%まで)
×	計画、目標数値を大きく下回った	(-10%超)

<評価>

・経営の効率化

【強化プランP18 目標達成に向けた具体的な取り組み】 資料2-1

1. 安定した患者数確保
 - ・紹介入院数、救急搬送入院数、リハビリ目的紹介数は前年より減少した。
 - ・高次病院への転送数は前年より減少した。
2. リハビリ患者需要への対応
 - ・令和7年4月に理学療法士1名、作業療法士1名採用した。
3. 増加する回復期患者への対応
 - ・地域包括ケア病床の延在院数は増加。利用率、稼働率は前年を下回った。
4. 在宅療養支援の強化
 - ・訪問看護延数は、前年を上回った。
5. 職員数の維持 6. 勤務医の高齢化対策
 - ・令和7年度は看護師 5名、看護補助者 1名採用した。
7. 周辺病院・高齢者施設との連携強化
 - ・ミーティング実施件数は増加したが、連携訪問は実施できなかった。
8. 外国人旅行者への対応
 - ・翻訳機（タブレット）を活用しながら対応した。

【強化プランP19 経営指標に係る数値目標の設定】 資料2-2

- ・入院数と透析数（登録数）が大きく目標値を下回った。
- ・通所リハビリは目標達成。外来はほぼ目標達成。
訪問看護は目標値を下回ったが前年度より向上した。
- ・職員給与比率は、収益減に加えて賃上げによる影響で目標を下回った。

【強化プランP20 収支計画】 資料2-4

（収益的収支）

- ・経常収益は入院収益、訪問看護収益が目標値を下回った。
- ・経常費用は医業費用が計画より下回ったため達成率は99.7%となった。
- ・純損益は目標値を大きく下回り、累積欠損金の達成率は87.5%となった。

（資本的収支）

- ・建設改良費が計画より上回り不足額の達成率は73.8%となった。
- ・損益勘定内部留保資金は計画より下回り達成率は67.6%となった。
- ・一般会計補助金は8,000万円削減した。

6. 経営の効率化

【強化プランP18 目標達成に向けた具体的な取り組み】

資料No. 2-1

※実績値はR8.2月現在

No.	課題	具体的な取り組み		月平均値		
				R7年度	R6年度	前年比
1	安定した患者数確保	高次医療機関、開業医、高齢者施設からの紹介や救急依頼に対して、満床時以外は可能な限り受入れる	紹介入院数	16	17	-1
			救急搬送入院数	11	15	-4
		リハビリ入院目的患者の増加を図る	リハビリ目的患者の紹介数	11	15	-4
		アドバンス・ケア・プランニング（ACP）により高次病院への転送を減らし、看取り患者の増加を図る	高次病院（4大）への転送数	9	13	-4
2	リハビリ患者需要への対応	スタッフ増員と 病床を機能訓練室に用途変更（R6年度病床削減）				
3	増加する回復期患者への対応	高次医療機関や高齢者施設との連携を強化し円滑な入退院と地域包括ケア病床を最大限活用し利用率と回転率を向上させる	地域包括ケア病床利用率	83%	85%	-2%
			地域包括ケア病床入棟数	44	46	-2
			地域包括ケア病床退棟数	43	46	-3
			地域包括ケア病床在院数	1,136	1,105	31
			地域包括ケア病床稼働率	86%	88%	-2%
4	在宅療養支援の強化	訪問看護の強化、訪問診療の展開	訪問看護延数	190	177	13
5	職員数の維持	研修生・実習生の受入体制確立（特に看護師、助産師）	看護学校等への訪問件数	0.5	0.8	-0.3
6	勤務医の高齢化対策	大学、県への派遣の働きかけを強化する	大学医局への訪問	0.6	0.6	0.0
7	周辺病院・高齢者施設との連携強化	周辺病院・高齢者施設へ定期訪問とミーティングを開催する	連携訪問件数	0.0	2.5	-2.5
			ミーティングの開催	4.0	3.5	0.5
8	外国人旅行者への対応	外国人旅行者への対応体制を整備する	外国人旅行者の受入(実人数)	15.2	23.4	-8.2

6. 経営の効率化

※実績値はR8.2月現在

【強化プランP19 (2) (3) 経営指標に係る数値目標の設定】

項目	R7年度		達成率	評価
	目標値	実績値(見込み)		
① 収支改善に関するもの				
経常収支比率	101.7%	94.6%	93.0%	△
医業収支比率	91.3%	82.6%	90.5%	△
繰入比率(総収益)	16.4%	18.5%	88.7%	×
繰入比率(医業収益)		23.0%	0.0%	×
② 経費節減に関するもの				
職員給与費比率	66.8%	72.3%	92.4%	△
材料費比率	14.5%	15.8%	91.9%	△
③ 収入確保に関するもの				
一日平均入院患者数(人)	86.0	70.6	82.1%	×
一日平均外来患者数(人)	270.0	266.3	98.6%	△
透析登録者数(人)	50.0	41.9	83.7%	×
病床利用率(%)	88.7	72.8	82.1%	×
地域包括病床利用率(%)	90.0	83.0	92.3%	△
一日平均通所リハビリテーション利用数(人)	15.0	15.2	101.3%	○
月平均訪問看護利用数(人)	300.0	193.2	64.4%	×
④ 経営の安定に関するもの(単位:百万円)				
当期末保有現金	747.0	505.3	67.6%	×
繰入金(収益的収支)	400.0	420.0	105.0%	○
当年度末処理欠損金	△1,995.0	△2,244	87.5%	×
企業債残高	1,329.0	1,556.7	82.9%	×

※達成率は、実績が0円以上50百万円未満の場合を105%、50百万円以上100百万円未満の場合を110%、100百万円以上200百万円未満を115%、200百万円以上を120%以上とした。

6. 経営の効率化

※実績値はR8.2月現在

入院数（1日平均）

診療科	目標値	R7年度	比較
内科	55	43	▲ 12
整形外科	25		▲ 25
産婦人科	4	3	▲ 1
小児科	1	1	▲ 0
眼科	1	1	▲ 0
耳鼻科	0	1	1
合計	86	49	▲ 37
病床利用率	89%	50%	

(過去の実績数)

	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
内科	40	51	56	58	48	41	45
整形外科	14	16	17	15	16	24	24
産婦人科	2	3	3	3	3	4	3
小児科	1	1	1	1	1	1	1
眼科	1	1	1	1	1	1	1
耳鼻科	0	0	0	0	0	1	1
外科	3	3	3	0	0	0	0
合計	61	75	80	78	70	72	74
病床利用率	58%	71%	76%	74%	66%	69%	76%

外来数（1日平均）

診療科	目標値	R7年度	比較
内科	90	84	▲ 6
透析	22	21	▲ 1
整形外科	40	42	2
小児科	35	32	▲ 3
産婦人科	20	22	2
眼科	20	19	▲ 1
耳鼻科	20	20	0
その他	23	25	2
合計	270	266	▲ 4

(過去の実績数)

診療科	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
内科	91	89	78	80	85	84	86
透析	12	12	15	17	18	19	20
整形外科	36	34	30	31	36	40	41
小児科	32	31	22	21	27	36	32
産婦人科	19	19	18	19	20	22	22
眼科	20	20	17	19	19	20	20
耳鼻科	17	16	12	13	15	18	18
その他	29	27	23	21	21	23	24
合計	255	248	215	220	241	261	263

【強化プランP20 (4) 収支計画】

※実績値はR8.2月現在

【単位：百万円】

項 目	R 7 年度		達成率	評価
	計 画	実績値 (見込み)		
18720000	12965787	実績値 (見込み)		
医業収益 a	2,254	2,142		△
医業外収益 b	145	95		
通所リハビリ収益 c	19	21		
訪問看護収益 d	19	13		
訪問リハビリ収益 e		2		
経常収益 a+b+c+d+e (A)	2,437	2,273	93.3%	
医業費用 e	2,244	2,225		△
医業外費用 f	124	126		
通所リハビリ事業費 g	7	15		
訪問看護事業費 h	23	30		
訪問リハビリ事業費 i		7		
経常費用 e+f+g+h+i (B)	2,396	2,403	99.7%	
経常損益 (A)-(B) (c)	41	△ 130		×
特別損益 (i)	0	0		
純損益 (c)+(i)	41	△ 130		
累積欠損金	△ 1,995	△ 2,244	87.5%	
[資本的収支の主なもの]				
企業債 a	13	111		×
他会計出資金 b	100	0		
収入計 a+b (A)	113	111		
建設改良費 c	15	123		
企業債償還金 d	158	152		
支出計 c+d (B)	173	275		
不足額 (A)-(B)	△ 60	△ 164	73.8%	
補填財源				
(損益勘定内部留保資金)	747	505	67.6%	×
[上記計画に含まれる一般会計補助金の総額]				
一般会計補助金	500	420	116.0%	◎
うち基準内	420	420		
うち基準外	80	0		

資料No. 3

・診療科別収益状況(入院)

※実績値はR8.2月現在

【単位：人、千円】

診療科	年度	令和6年度(A)		令和7年度見込み(B)		増減【(B)-(A)】	
		1日平均患者数	入院収益	1日平均患者数	入院収益	1日平均患者数	入院収益
内科		45	572,117	43	566,349	△2	△5,768
外科						0	0
小児科		1	11,836	1	10,266	△0	△1,570
産婦人科		4	62,924	3	60,645	△1	△2,279
		24	329,115	22	313,333	△2	△15,782
眼科		1	28,735	1	27,651	△0	△1,084
耳鼻咽喉科		1	8,997	1	9,314	0	317
合計		74	1,013,724	71	987,558	△3	△26,166

・診療科別収益状況(外来)

【単位：人、千円】

診療科	年度	令和6年度(A)		令和7年度見込み(B)		増減【(B)-(A)】	
		1日平均患者数	外来収益	1日平均患者数	外来収益	1日平均患者数	外来収益
内科		86	236,943	85	231,087	△1	△5,856
透析内科		20	160,207	22	165,344	2	5,137
小児科		33	40,086	32	39,788	△1	△298
産婦人科		22	35,134	22	37,254	0	2,120
整形外科		41	90,929	43	89,116	2	△1,812
眼科		20	32,614	19	32,376	△1	△238
耳鼻咽喉科		18	26,168	20	31,205	2	5,037
その他		23	37,748	25	39,197	1	1,450
94870272		263	659,827	269	665,368	5	5,541

資料No. 4

損益状況

※実績値はR8.2月現在

	R7年度強化プラン	R7年度実績見込み	比較
<病院事業収益>	2,437,785,537		▲ 2,437,785,537
<病院事業費用>	2,396,778,931	2,403,269,856	6,490,925
		0	0
1. 医業収益	2,254,766,415	2,142,470,924	▲ 112,295,491
(1) 入院収益	1,177,125,000	985,006,200	▲ 192,118,800
(2) 外来収益	684,301,500	668,734,531	▲ 15,566,969
(3) その他の医業収益(繰入以外)	93,339,915	89,368,608	▲ 3,971,307
(3) その他の医業収益(一般会計)	300,000,000	399,361,585	99,361,585
		0	0
2. 医業費用	2,243,544,445	2,224,565,067	▲ 18,979,378
(1) 給与費	1,390,000,000	1,366,516,569	▲ 23,483,431
(2) 材料費	283,000,000	274,955,002	▲ 8,044,998
(3) 経費	405,000,000	416,153,164	11,153,164
(4) 減価償却費	163,760,000	164,190,000	430,000
(5) 資産減耗費	40,500	40,500	0
(6) 研究研修費	1,743,945	2,709,832	965,887
		0	0
3. 医業外収益	144,961,122	94,870,272	▲ 50,090,850
(1) 受取利息及び配当金	1,000	699,778	698,778
(2) 補助金	80,000,000	0	▲ 80,000,000
(3) 負担金交付金	20,000,000	20,638,415	638,415
県補助金	0	29,038,000	29,038,000
(4) 患者外給食収益	107,000	112,916	5,916
(5) 長期前受金戻入	14,853,122	14,853,000	▲ 122
(6) その他の医業外収益	30,000,000	29,528,163	▲ 471,837
(7) 雑収益	0	0	0
		0	0
通所リハビリ収益	19,338,000	20,774,547	1,436,547
訪問看護収益	18,720,000	12,965,787	▲ 5,754,213
訪問リハビリ収益	0	1,772,240	1,772,240
		0	0
4. 医業外費用	123,663,250	125,867,034	2,203,784
(1) 支払利息及び企業債取扱諸費	30,925,749	31,008,520	82,771
(2) 患者外給食材料費	1,420,000	1,199,225	▲ 220,775
(3) その他医業外費用	16,337,501	16,548,014	210,513
(4) 繰延償却	0	0	0
(5) 消費税及び地方消費税	0	0	0
(6) 保険料	0	0	0
(7) 雑損失	74,980,000	77,111,276	2,131,276
		0	0
5. 特別利益	0	0	0
(1) 固定資産売却益	0	0	0
(2) 過年度損益修正益	0	0	0
(3) その他特別収益	0	0	0
		0	0
6. 特別損失	571,236	376,756	▲ 194,480
(1) 固定資産売却損	0	0	0
(2) 固定資産除却損	0	0	0
(3) 特損損失	0	0	0
(4) 臨時損失	0	0	0
(5) 過年度損益修正損	571,236	376,756	▲ 194,480
(6) その他特別損失	0	0	0
当年度純利益	0	0	0
前年度繰越利益剰余金	0	0	0
当年度未処分利益剰余金	0	0	0
		0	0
通所リハビリテーション事業費	6,500,000	15,465,000	8,965,000
訪問看護事業費	22,500,000	30,342,000	7,842,000
訪問リハビリ事業	0	6,654,000	6,654,000
経常利益	41,006,606	▲ 130,416,087	▲ 171,422,693

令和7年度 坂井市立三国病院経営強化プラン評価委員会 委員名簿

職名	氏名	所属等
委員長	新開 和典	坂井市副市長
副委員長	飴嶋 慎吾	三国病院院長
委員	山田 秀樹	坂井市議会教育民生常任委員長
委員	山村 修	福井大学医学部地域医療推進講座教授
委員	越野 雄祐	坂井地区医師会会長
委員	重森 宣彦	税理士 坂井市監査委員
委員	坂下 正人	福井県健康福祉部地域医療課長
委員	大木 央	三国病院副院長
委員	奥出 敏文	坂井市総務部長
委員	小川 宣成	坂井市財務部長
委員	森瀬 明彦	坂井市健康福祉部長